（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	椎名　亮輔	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	・担当講義の準備を行う。 ・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。 ・学生が自学自習できる環境を整える。 ・担当する卒研生の就職や大学院進学に関する指導を行う。	0.30	・担当講義の準備を行った。 ・担当講義のシラバスを受講者へ周知した。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進めた。 ・学生が自学自習できる環境を整えた。 ・担当する卒研生の就職や大学院進学に関する指導を行った。 ・院生との共同研究を通じて、専門分野の指導を行なった。
研究	0.25	・研究論文を作成する。 ・研究成果を学会等で発表する。 ・新学術領域J-Physicsへ参加し研究貢献を行う。 ・物理学会に参加し成果発表を行う。	0.25	・研究論文1編（単著）を作成し、国際学術誌に公刊した。 ・研究成果を日本物理学会およびその他の学会にて口頭発表した（5件）。 ・新学術領域J-Physicsへ参加し研究貢献を行った。 ・学外研究者との共同研究を進めた。 ・英文著書1チャプターを分担執筆した。
社会貢献	0.05	・オープンキャンパスや公開講座等に参加する。	0.05	・オープンキャンパスや公開講座等に参加し、物理系についての説明を行なった。
管理運営	0.50	・物理系主任として、物理系の運営業務を行う。 ・その他、理学部内委員としての役割を果たす。 ・入試準備での役割を果たす。	0.40	・物理系主任として、物理系の運営業務を行った。 ・理学部内委員（代議員、教育委員、施設整備委員、自己評価委員、将来計画委員、留学生特別プログラム委員、研究推進委員、理工学研究科委員）としての役割を果した。 ・理学部業績評価委員として、新たな業績評価の制度化へ向けて準備を行なった。 ・入試準備および入試業務での役割を果した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

□ 学外公表に同意しない。　　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	松本　剛	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・引き続き、固体地球物理学、海洋科学、天文学、情報科学、環境教育、キャリア教育に関する共通教育科目、専門科目の講義を担当する。 ・今年度より試みとして、国連の定める2030SDGsのどの目標に資する内容であるかを意識した授業の展開を取り入れる。 ・学生の進路決定に資するべく、就職セミナー、インターンシップ等の情報が入り次第、学生に周知し、積極的な参加を促す。	0.30	・予定通り、共通教育・専門科目の講義を実施した。 ・「海洋の科学」の授業について、オリエンテーション時にSDGsの解説を行い、各回の振り返りのショートテストで、その日の授業内容が何番の項目と関係が深いかについて記させた。「総合環境学概論」の分担回についても同様とした。 ・県内・海外インターンシップ募集の情報を受け取り次第、基礎ゼミ担当学生に周知した。 ・11月28日に附属中学校で実施された特設授業に参加し、防災分野の授業を行った。
研究	0.30	・チリ沖のテクトニクスに関する論文を完成させ、投稿する。また、博士前期課程学生を指導し、地磁気3成分データの解析を行う。 ・長崎丸航海で新しい測深機によって海底地形データを取得し、従前のデータとの比較検討を行う。 ・ORCHIDSプロジェクトに防災科学の分野で参加し、今年度は特にGISを活用した地域防災の研究に着手する。	0.30	・チリ沖テクトニクス論文は現在執筆中であるが、当該学生の修士論文の内容を踏まえて新たなデータ（地磁気3成分）で補強し、再加筆の後投稿する予定である。 ・沖縄トラフに発達する蛇行深海谷について、中国大陸方面からの混濁流により、水深が20年前の測深と比べて明瞭に変化していることが判明した。2020年5月の学会（JpGU）で発表すべく要旨を投稿した。 ・GISを活用し、陸域のみならず沖縄近海の海底についても地辷り痕を鮮明に表示した。 ・明和の大津波の際の津波遡上高についてのこれまでのデータより、波源となる断層の規模を求め、2020年6月（おそらく秋に延期）に開催される国際シンポジウムのproceedingsに投稿した。
社会貢献	0.25	・引き続き、防災教育・キャリア教育に関する教員免許状更新講習を開講する。 ・地域連携に関する学内プロジェクトに応募し、昨年度開始した「星空案内人養成講座」を一層強化するとともに、外部機関との連携により、星空を活用した地域貢献の可能な人材の育成が継続的に実施できる体制の整備に着手する。 ・放送大学にも講義を提供する。 ・共通教育の授業をサテライトキャンパスにも配信する。	0.25	・予定通り、教員免許状更新講習に2講座（共に選択必修領域）を提供した。 ・2019年度地域協働プロジェクト推進事業に応募して採択され、「星空案内人養成講座」を後学期に開講した。計116名の受講登録者があり、2名の正案内人，49名の準案内人が新たに誕生した。また、天文サークル生と共に、地域で4回の宇宙教室・観望会を実施した。 ・4月20・21日に、放送大学の講義を実施した。 ・「海洋の科学」「天体観測を通して学ぶ宇宙」「星空案内人養成講座」をサテライトに配信した。
管理運営	0.15	・地学系主任として地学系全体の運営に携わると共に、理学部の各種委員会に出席して学部全体の円滑な運営に資する。 ・教職課程実習委員会委員として、理学部の教育実習・介護等体験に参加する学生の支援を行うとともに、全学の教員養成の方針決定に参画する。 ・地学分野の入試世話人として入試業務全体に関与する。	0.15	・学科長・系主任として、地学系全体の運営、理学部各種委員会活動を実施した。 ・4月の新入生向け教職オリエンテーション、教育実習オリエンテーション、介護等体験オリエンテーションを実施するとともに、全学の教職課程実習委員会メンバーとして、委員会活動を行った（6月30日まで）。 ・入試の各種委員の割り振りを行った。また、新たに推薦入試を導入し、面接・成績評価・合否判定を主導して行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	前田高士	所　属	理学部　数理科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.15	・1年次線形代数：授業についていけない学生がいないようにする。 ・2年次代数：学士の質の保障を踏まえた講義を行う。 ・卒業研究：卒業後の進路を踏まえたゼミを行う。 ・修士2年次：余裕をもって修士論文を完成するように指導する。	0.20	全体として，授業，ゼミは時間の制約のために準備不足だった。 ・1年次：理解不十分な学生には口頭試問も行った（初年次学生39名合格） ・2年次：質問に来た一部の学生は授業内容に興味を持ったと思う。 ・ゼミ生は協力してよくがんばった。教育実習を参観した。3名とも進路が確定した。 ・休学中の院生と既卒ゼミ生2名が教員採用試験に合格した。 ・修士論文作成は，時間不足で計画どおりに進まなかったのが心残り。
研究	0.15	べき零変換，ヤング図形の研究を継続する。	0.10	・11月，投稿していた論文のアクセプト通知が届いた。 ・10月以降，自分の研究時間が取れなかったのが残念。
社会貢献	0.05	8月の教員免許更新講習で，出席者の満足が得られるような講義を行う。	0.05	・出席者(15名）から中学・高校教育の状況を聞けて有意義だった。 ・受講者アンケートから判断して成功したと思う。
管理運営	0.65	・31年度中期計画，4年目終了時評価のための学位授与機構への提出文書（達成状況報告書，現況調査表など）の作成・統括を行う。 ・理学部自己評価委員会の仕事を滞りなく行う。 ・3年次指導教員の仕事を滞りなく行う。	0.65	・26冊の現況調査表作成の他にも，様々な業務があり予想通り忙しかったが，多くの教職員に助けられた。学内外の評価関係者から学ぶことが多かった。 ・3年次指導教員として，学生と話す時間が少なかった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	神山　靖彦	所　属	理学部　数理科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・授業評価アンケートで、説明が丁寧で内容に興味が持てたと評価されるようにする。 ・幾何の講義で、ここで説明したことが私の研究内容にどう発展していくか概説する。 ・卒業研究の指導教員として、就職活動や教員・公務員試験対策などに積極的に取り組むよう指導する。	0.30	・数学序論の授業評価アンケートで、「演習問題とその解き方も行うので、理解しやすい授業だった」とか「板書が見やすくて助かる」と書かれた。 ・幾何の授業評価アンケートで、「具体的な例を多く挙げていて頭に入りやすく、幾何に対する興味が深まった」と書かれた。 ・卒業研究ゼミ生のうち1名は公務員に合格した。もう2名は教員志望で、良く準備された教育実習研究授業を行っていた。1名は教員採用1次試験に合格した。
研究	0.35	・獲得済みの科学研究費補助金を有効に活用した研究を行う。 ・論文を執筆し、国際誌へ投稿する。	0.35	・科研費を共同研究者なしの研究代表者として持ち続けているのは23年目であるが、惰性になることなく有意義に執行した。 ・論文3本が国際誌に掲載された。
社会貢献	0.10	国際誌から依頼されたレフェリーを行う。	0.10	・国際誌から依頼されたレフェリーを2本行った。40ページ近い論文の方は、査読に大変苦労した。
管理運営	0.25	・委員会委員の業務を行う。 ・4年次指導教員として、適切な生活指導・就学指導を行う。	0.25	・委員会委員の業務を行った。 ・教員以外に民間企業への就職も考えるよう指導した結果、4年生全体の就職状況が比較的良かった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	佃　修一	所　属	理学部　数理科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学生が自分の頭で考える習慣を身につけることが出来るようつとめる。 卒業研究のゼミ生3名中1名は大学院進学を希望しているため、数学の力を向上させることを主眼に指導する。 1名は教員志望のため、数学の力およびプレゼンテーションの能力を向上させることを主眼に指導する。 1名は民間企業への就職を希望しているのでそのサポートを行う。 また、修士の学生の指導を行う。	0.30	担当した講義では簡単なレポートを課すことで、自分で考える習慣が身につくようつとめた。 教員志望のゼミ生は教員採用試験に合格した。この学生を含め2名のゼミ生が大学院に進学することとなったので、数学の力を向上させることに力点をおいた指導を行った。就職希望の学生は民間企業への就職が内定している。 また、修士の学生の指導を行った。
研究	0.55	近年取り組んでいる組み合わせ論的代数位相幾何学に関する研究が進展しつつある。 この研究をさらに推進する。 科研費に応募する。	0.55	国際誌に投稿中の論文の改定を行った。 研究成果について講演した。 科研費に応募した。
社会貢献	0.05	依頼があれば国際誌のレフェリーを行う。	0.05	国際誌のレフェリーを行った。
管理運営	0.10	研究推進委員会、施設整備委員会等の委員として学部、学科運営に貢献する。	0.10	左記に加え数理データサイエンス教育支援専門委員として、大学、学部、学科運営に貢献できたように思う。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	伊藤　雅彦	所　属	理学部　数理科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	理学部・数理科学科の「微分積分学AD」では、高校数学の「微分積分」に加え、極限の理論的な取り扱い（いわゆる$\varepsilon-\delta$論法）ができるようになることを目標とする。また初学者の興味関心が数学の公式に潜む背景にも向くようになることを目標とする。「数学序論演習」では、具体的な計算ができるようになることを目標とする。そのための演習を行う。理学部、数理科学科の3、4年次「解析学特論」では、複素関数論の立場から、主にガンマ関数の性質を理解することを目標とする。	0.40	「微分積分学AD」と「数学序論演習」では、$\varepsilon-\delta$論法に時間をかけて解説した。毎週、レポート問題を出し、採点を行い返却した。後期は中間考査を2回行い、各単元事に集中して勉強できるようにした。期末考査の後、補講を行い公式の背景を紹介した。「解析学特論」では、ガンマ関数の性質、特にその一意性を示すための「ボーア・モレルループの定理」を詳しく解説した。その他、研究室の大学院生に修士論文作成への個別指導を行った。
研究	0.40	ワイル群不変な楕円超幾何関数について、古典型、例外型それぞれの視点で研究をし、楕円超幾何関数が満たす差分方程式の性質をあきらかにする。	0.40	セルバーグ型超幾何関数について論文を書き、プレプリントサーバにアップロードした。「Journal of Mathematical Physics」誌に論文が掲載された。2回の国際学会で、楕円超幾何関数について講演をした。
社会貢献	0.05	昨年同様「高校数学教育を考える会」に参加し、琉球大学の入試動向について議論する。	0.05	第43回「高校数学教育を考える会」に参加し、琉球大学の入試動向について議論した。
管理運営	0.15	「大学院URGCC委員会」「将来計画委員会』委員担当。1年次指導教員担当。	0.15	「大学院URGCC委員会」に出席し、大学院のディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシー（DP, CP, AP）に関連することを議論した。1年次指導教員として、合宿形式の懇親会に参加した。FD講演会に参加した。監督業務、委員会委員業務に従事した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	木本　一史	所　属	理学部　数理科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	本年度は微分積分学ST（工学部），代数学序論（数理），代数学（高年次選択）の講義・演習を担当する。微積については基礎的事項の習得を重視する。代数学序論は初めての担当であるが群の基礎を扱う。選択科目の代数学では代数学序論などで扱われない基礎事項を習得する機会としたい。卒業研究および修士課程学生の指導も適切に行う。	0.40	微積は複数回のレポート（提出任意）を課すことで練習問題への取り組みを促した．代数学序論は前半の初等的部分でゆっくりしすぎて後半が急ぎ足気味であったり扱わない話題が出たりしたのが反省点である．選択科目の代数学では，できるだけ具体的な対象についての話を加えるよう注意した．卒業研究は特に問題なし．修士学生の指導については，修士論文執筆をもう少し余裕あるスケジュールで進められれば良かった．
研究	0.40	非可換調和振動子のスペクトルゼータ関数およびアルファ行列式に関する研究を中心に推し進める。またCREST暗号数理の研究分担者でもあり、こちらの研究も進める。	0.40	左記のテーマについての研究を進めた．学会や研究集会で合計3件の成果発表を行った．また論文を4本投稿し，うち3本が受理（1本は出版済み）された．
社会貢献	0.10	学科のウェブページ更新を通じて、学科の活動などについて最新の情報をオープンにする。	0.10	学科のウェブページの更新を適宜行った．
管理運営	0.10	本年度は代議員と教育委員を担当する。委員としての業務を着実に遂行する。	0.10	委員としての業務を行った．大きな問題はなかったと思う．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	須藤　隆洋	所　属	理学部　数理科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	担当する次の講義、微分積分学I, II、解析学序論I, II、解析学III、及び解析学IVの準備を行い、実行する。	0.40	担当する次の講義、微分積分学I, II、解析学序論I, II、解析学III、及び解析学IVの準備を行い、実行した。さらに、学部ゼミを行い、1名を指導した。また、11月1日に開催されたFD (COIL活用セミナー)に参加した。さらに、11月14日に開催された琉球大学FD・SD研修に参加した。また、12月19日に開催されたCOILと写真活用(FDセミナー)に参加した。
研究	0.45	研究成果を論文にまとめ投稿する。必要に応じて研究発表を行う。	0.45	査読付き単著論文3編が掲載予定となった。査読無し単著論文2編が掲載された。研究発表はなかった。また、科研費基盤Cの申請を行った。
社会貢献	0.10	アメリカ数学会のMath Reviewとヨーロッパ数学会のzbMathの論文評論者として貢献する。	0.10	アメリカ数学会のMath Reviewの論文評論は5編であった。また、ヨーロッパ数学会のzbMathの論文評論は8編であった。また、8月22日に教員免許更新講習の講義をした。
管理運営	0.05	理学部紀要編集委員、理学部紀要数学編(RMJ)委員、及び24大学委員として貢献する。	0.05	理学部紀要編集委員、理学部紀要数学編(RMJ)委員、及び24大学委員として貢献した。また、12月5日に開催された人事給与マネジメント改革(セミナー)に参加した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	杉浦　誠	所　属	理　学部　数理科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.70	担当する共通教育、学部および大学院の授業を適正に行い、公正に評価をする。 アクチュアリーコースを中心とした学部生および大学院生の指導を適切に行う。	0.75	担当した共通教育、学部および大学院の授業を適正に行い、公正に評価をした。 アクチュアリーコースを中心とした学部生および大学院生の指導を可能な限り適切に行った。アクチュアリー志望の3年次4年次を対象に特別講義Ⅳとしてモデリングと生保数理の講義を行った。
研究	0.10	確率解析もしくは保険数理に関するに関する研究を行い、成果が出れば発表する。	0.05	保険数理の研究を行ったが、十分な時間が確保できず成果は出せなかった。
社会貢献	0.10	教員免許更新講習などを行う。 OLIS保険フォーラムを開催する。	0.10	教員免許更新講習および第101回全国算数・数学教育研究（沖縄）大会の指導助言を適正に行った。 OLIS−琉球大学理学部保険フォーラムを開催した。参加者は87名以上であった。
管理運営	0.10	担当する委員としての活動を適正に行う。	0.10	自己評価委員と委員会委員を中心として適正に活動できており、残りの期間も可能な限り適正に行う予定である。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	眞野　智行	所　属	理学部　数理科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	共通教育科目の微分積分、専門科目の解析学、4年生向けの卒業研究また大学院の研究指導などを担当する。初学年に対しては高校数学から大学数学への橋渡しがうまくいくように留意しつつ基礎学力の定着を目指し、高学年に対しては基礎学力の実践能力および専門知識を身につけることを目標とする。また、2年次指導教員なので適切な指導、支援等を行う。	0.30	共通教育科目の微分積分については例題を取り交ぜながら解説することで基礎学力の定着に役立ったと思う。解析学ではいくつかの進んだトピックについて講義することができ、専門知識の修得に役立ったと思う。卒業研究および大学院の研究指導では、学生の発表における説明内容の不備等について指摘を行い、その後学生による説明内容の改善が認められたので、学生の自律的な学習に役立ったと考える。
研究	0.30	科研費採択課題「平坦構造の一般化とモノドロミ保存変形」について中心に研究を行う。研究を推進させるとともに研究結果について論文執筆や研究会などでの発表を行う。	0.30	主に科研費採択課題について研究を行い、年度内に4編の論文が国際学術誌および国際論文集に掲載された。また金沢大学において研究内容に関連した集中講義および講演を行った。これは研究成果全体の関連について整理しまとめる機会としても役立った。
社会貢献	0.10	教員免許状更新講習の提供を行う予定である。	0.10	教員免許状更新講習を実施した。その他に国際誌に投稿された論文2編の査読を行った。
管理運営	0.30	学士教育プログラム推進委員に当たっている。教育の改善やその評価などに関わる内容を含むので、支障のないように職務を遂行したい。	0.30	学士教育プログラム委員として、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの見直し等を行った。その他に委員会委員の職務を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	陳　春航	所　属	理学部　数理科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	共通科目「微分積分学Ⅰ、Ⅱ」、「統計学」、専門科目「数理統計学Ⅰ、Ⅱ」の講義、「卒業研究Ⅰ,Ⅱ」を通して4年次学生の指導、大学院専門科目「数理統計学」、「数理科学特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「数理科学講究Ⅰ、Ⅱ」、「数理科学特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「情報数理学特別講義Ⅰ、Ⅱ」の講義。4年次学生、大学院生に対する就職指導。	0.45	目標設定通り、共通科目「微分積分学Ⅰ、Ⅱ」、「統計学」、専門科目「数理統計学Ⅰ、Ⅱ」の講義、「卒業研究Ⅰ,Ⅱ」を通して4年次学生の指導、大学院専門科目「数理統計学」、「数理科学特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「数理科学講究Ⅰ、Ⅱ」、「数理科学特別研究Ⅰ、Ⅱ」、「情報数理学特別講義Ⅰ、Ⅱ」の講義を行った。4年次卒業ゼミ学生に対して公務員受験勉強を指導した。
研究	0.40	津波や台風など巨大自然災害発生リスクに関する研究、金融保険リスクに関する統計的研究、講演、論文投稿	0.40	東北三陸や四国清水地域において、巨大津波発生リスクの統計的解析を行い、研究成果を論文としてまとめている。
社会貢献	0.10	アクチュアリー資格取得のための指導、人材育成	0.10	数理統計学Ⅰ、Ⅱの講義でアクチュアリー資格試験の指導を行った。
管理運営	0.05	大学院留学生特別プログラム（理学系）運営委員会委員として貢献	0.05	大学院留学生特別プログラム（理学系）運営委員会委員として、留学生の受け入れ等、当委員会の運営に携わった。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	橋本　康史	所　属	理学部　数理科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	工学部1年生の微分積分学STI,II、理学部数理科学科1年生の基礎ゼミI,II、線形代数学演習I,II、4年生の卒業研究と大学院の授業を担当する。微分積分学では、講義だけでなく演習も行い実践的な計算力を身につけさせる。線形代数学演習では、講義だけでは理解できない部分を補完し、実践的な計算もできるように、演習を行う。基礎ゼミでは、少人数の利点を生かした指導を行うことで、基礎的な学力と共に、プレゼン能力もやしなう。卒業研究では、整数論のテキストを基により専門的な数学を学ばせる。	0.35	微分積分学では演習時間を確保することで実践的な計算力を養った。基礎ゼミでは少人数の利点を生かし、きめ細やかな指導を行うことができた。線形代数学演習では線形代数学の担当教員と連携し、線形代数の理解を深めた。卒業研究では、専門的な整数論に取り組んだ。
研究	0.50	主に、双曲多様体上の素測地線分布とラプラシアンのスペクトルの分布に関する研究、および、公開鍵暗号方式の安全性評価に関する研究を行う。前者については、2つの分布の様子を調べ、それらを跡公式によって比較することで相互作用的な研究の進展が期待できる。後者については、主に連立2次方程式を用いた暗号方式に関する安全性評価を行う。ともに、成果が得られ次第、学術誌への論文投稿と研究集会での口頭発表を積極的に行う。	0.50	前者については、主にモジュラー群を基本群とするリーマン面に関する素測地線定理の誤差項評価を行った。後者については、拡大体型のいくつかの暗号方式の構造を調べ、既存の方式と同様の攻撃法が有効であることをつきとめた。これらの研究成果については、すでに研究集会で公表済みであり、学術誌への掲載を目指す。
社会貢献	0.00		0.00	
管理運営	0.15	理学部の地域貢献支援委員と全学のグローバル教育支援機構アドミッション部門併任教員としての活動を行う。	0.15	理学部の地域貢献支援委員と全学のグローバル教育支援機構アドミッション部門併任教員としての活動を行った。また、理学部の入試改革WGの活動も行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	林　正史	所　属	理学部　数理科学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	確率過程論I, 基礎ゼミ, 微分積分学ST I, II、情報数学を担当する。また、4年次卒業研究、修士1年のゼミを担当する。	0.40	確率過程論I, 基礎ゼミ, 微分積分学ST I, II、情報数学を担当した。また、4年次卒業研究と修士1年のゼミを担当した。
研究	0.20	確率解析の研究を行う。	0.20	確率解析の研究を行った。研究成果をまとめた論文を国際誌(Communications on Stochastic Analysis)に発表した。
社会貢献	0.20	オープンキャンパス（理学部体験ツアー（数理科学担当））を担当する。アジア生命保険振興センターと保険フォーラムを開催する予定である。	0.20	オープンキャンパス（理学部体験ツアー（数理科学担当））を担当した。アジア生命保険振興センターと保険フォーラムを開催した。
管理運営	0.20	理学部広報委員長および、教務委員を担当する。	0.20	理学部広報委員長および、教務委員を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	松下　尚弘	所　属	理学部　数理学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	基礎ゼミにおいて大学における数学の言葉の使い方や，数学的な概念の説明の仕方，発表方法などを説明する．また幾何学序論IIの講義およびその演習において，位相空間論の基礎を解説する．卒業研究において，数学の基本的なテキストを読む能力を指導する．	0.30	基礎ゼミにおいて大学における線形代数および微積分の演習問題の発表を指導した．また幾何学序論IIおよびその幾何学序論演習IIIにおいて，位相空間論の基礎を解説した．卒業研究においては，マトウシェクとネシェトリル著の「離散数学への招待・上」をテキストとし，数学の基本的な文献を読む指導をした．
研究	0.50	グラフから構成される単体複体として，独立複体というものがあり，そのホモトピー型の決定については多くの研究がある．かなり多くのグラフの族において独立複体が球面のウェッジに分解することが知られているが，本年度ではグリッドグラフの独立複体が球面のウェッジに分かれるかについて研究したい．	0.50	グリッドグラフのホモトピー型は，(1 x n)，(2 x n)，(3 x n) のグリッドグラフまでは知られていた．本年度の研究により，(4 x n)のグリッドグラフ，および (5 x n)のグリッドグラフの独立複体のホモトピー型を計算することができた．これらの結果は現在，論文にまとめているところである．
社会貢献	0.00	特に考えていない．	0.00	
管理運営	0.20	選挙管理委員として，理学部の人事などの選挙が公正に行われるようにi委員の業務に従事する．	0.20	選挙管理委員として，理学部の人事の選挙が公正に行われるように委員の業務を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	maehira	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部学生に対しては，統計力学特論，統計力学，統計力学演習，物性論など必修・選択科目講義と卒業研究のセミナー指導を行う。また，大学院学生に対しては，物性学特論の講義と特別演習，特別研究の指導を行う。すべての科目においてノートパッドを導入し，学生の理解度を把握しながら視覚的に授業を進めていく。 物性学特論については，物性物理学の基礎的な事項から出発して，研究の最前線で行われているテーマについても講義する。 卒業研究生，大学院生を指導する。 講義時間以外についても，学生からの質問があれば積極的に指導する。	0.30	学部学生に対しては，統計力学特論，統計力学，統計力学演習など必修・選択科目講義と卒業研究のセミナー指導を行った。統計力学については口頭での質疑を実施し，学生の理解度の把握に努め，授業に活かした。また，大学院学生に対しては，物性学特論の講義と特別演習，特別研究の指導を行った。物性学特論については，物性物理学の基礎的な事項から出発して，研究の最前線で行われているテーマについても講義を行った。卒業研究生，大学院生を指導した。講義時間以外にも，学生からの質問があり指導した。
研究	0.30	「強相関化合物におけるf電子の局在・非局在転移近傍の一粒子描像に関する研究」に関して科研費など外部資金獲得を目指す。 関連論文を国際紙に投稿することを目標にする。 関連する国際会議や所属する学会で研究発表を行う。 他大学あるいは他研究所と国内的共同研究を行う。	0.30	「強相関化合物におけるf電子の局在・非局在転移近傍の一粒子描像に関する研究」に関して研究を進めた。 他大学あるいは他研究所と国内的共同研究を進めた。また、欧文学術誌へ研究成果が掲載され、日本物理学会において研究成果の発表を行った。
社会貢献	0.20	公開講座を行い小中高校生を中心とした地域社会への物理の魅力を伝える。オープンキャンパスにて研究室紹介を行い，研究内容の説明を高校生に行う。幼稚園・小学校や公共施設に出向き，物理実験による科学教育を行う。科学の祭典、青少年科学作品展，県主催の科学教育人材育成事業に参画する。産学官連携として，連携事業を実施し学内の教員とのコーディネートを進める。ゼロエネルギーハウスに関する実証実験棟を学内に建設し、県内企業を中心とした連携を進める。	0.20	公開講座を行い中高校生を中心とした地域社会への物理の魅力を伝えた。オープンキャンパスにて研究室紹介を行い，研究内容の説明を高校生に行った。幼稚園・小学校や公共施設に出向き，物理実験による科学教育を行った。科学の祭典、青少年科学作品展，県主催の科学教育人材育成事業に参画した。 産学官連携として，県内企業との連携でゼロエネルギーハウス実証実験棟を琉球大学内建築し実証実験を進めた。また，沖縄版ゼロエネルギービル・ハウスに関する内閣府協賛の研究・研修会を国内外で実施し国内外の建築関連業者ならびに県内銀行などの参加を得た。 琉球エアコミューター，日本トランスオーシャン航空と連携し本学学生によるパイロット選抜のサポートを行い，3名のパイロット候補生を輩出した。併せて指導した学生から航空大学校へ1人、航空学生へ1人、パイロットとして採用された。
管理運営	0.20	理学部副学部長として学部運営に関して滞りなく進むよう各種委員と連携しながら行う。障がい学生支援室併任教員、産学官連携推進機構併任教員、地域創生研究センター併任教員として、大学運営を滞りなく進める。物理系内システム委員として，メールサーバー，計算機サーバーの管理運営を行う。	0.20	理学部副学部長として学部運営に関して滞りなく進むよう各種委員と連携して進めた。産学官連携推進機構併任教員として，県内外の企業と連携を進めた。次年度、経済産業省や商工会連合会への支援金申請の足がかりを作った。物理系内システム委員長として，メールサーバー，計算機サーバーの管理運営を行った。 今年度発足の障がい学生支援室の併任教員として，合理的配慮に関する内容で学内の連携を進めた。 IT戦略室室員として，学内運営に参加した。全学委員として、発明審査委員会委員、社会連携に関する自己点検・評価委員会委員、職員宿舎再整備検討WG委員を新たに務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	瓜生　康史	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	「物理学入門I, II」「プログラミング入門」「計算物理学」「相対論的宇宙物理学入門」（大学院）の講義，卒業研究及び修士研究の指導を行う。学生の理解度を把握しつつ講義を進めるよう注意する。コンピューター関連科目ではTAを採用し実習時の質問にきめ細かく答えながら講義を進める。研究室所属の4年次学生の進路に関する助言等を行う。また，物理系の1年次指導教員として修学指導等の学生支援に当たる。	0.40	学部向け講義については，講義の補助教材としてプリントを準備し，学期中のレポートや小テストにより学生の理解度の把握につとめた。実習補助のためのTAの活用も計画通り行った。卒業研究では前期に一般相対論についてのテキストで輪講を行い，後期に数値流体シミュレーション法について卒業研究の指導をした。研究室の学生に対し進路に関する助言等を行った。修士学生の研究に向けた指導を行った。OIST若手研究者による集中講義3件を企画した。
研究	0.40	高密度星やその連星の計算法開発をさらに進め，関連論文を2編投稿することを目標にする。テレコンファレンスや相互訪問を通じて国内外の共同研究者との協力関係の緊密化を図る。また，関連する国際会議や学会において研究発表を行う。	0.40	高密度星関連の論文が年度目標を上回る4編学術誌に掲載され1編が受理された。そのうち2編はPhysical Review Letters誌に掲載・受理された。共同研究者と定期的にテレコンファレンスを行った。また共同研究者を複数招へいした。
社会貢献	0.10	物理系公開講座の開催に貢献する。昨年度に引き続き，パルサーを解りやすく解説するための教材開発等を試みる。	0.10	物理系公開講座の開催に貢献した。一般相対論と重力を理解するための教材を開発し，公開講座で紹介した。この教材は今後継続的に改良して行く。
管理運営	0.10	理学部と所属学科の図書委員及びその他の委員会委員としての用務を行う。	0.10	理学部および所属学科の図書委員としての用務及びその他の用務を行った。APSジャーナル講読継続に関する資料を作成した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	稲岡　毅	所　属	理学部　物質地球科学科　物理系	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・共通教育科目「物理学I・II」、、専門教育科目「物理数学I・IV」、大学院教育科目「素励起物理学」（前期課程）、「表面物理学特論」（後期課程）を担当する。 ・研究室では、学部4年次生の研究指導を行う。 ・研究室の指導教員として、就職、大学院進学などについて学生の相談に応じ、学生の進路模索を支援する。 ・教育関連のFDに出席し、教育委員会の管理運営に活用する。	0.30	・共通教育科目「物理学I・II」、専門教育科目「物理数学I・IV」、大学院教育科目「素励起物理学」（前期課程）の授業を行った。学部の科目では小テストを2回行い、学生の自己学習を促した。 ・研究室では指導教員として、4年次生1名の研究指導を行った。 ・研究室の学生の就職活動に気を配り、これを支援した。 ・海外留学の学習効果を分析する心理テストBEVIについての「BEVIワークショップ」に出席し、その内容と実施方法を、海外実習・研修担当教員に周知し、学部でのBEVI実施体制を整えた。
研究	0.25	・国際誌に学術論文を投稿する。 ・所属する学会、研究会で研究発表を行う。 ・研究助成の申請を行う。 ・他大学の研究者と共同研究を行う。	0.25	・研究時間の制約のため、研究の進行が遅延した。国際誌に学術論文1編を投稿(第8発表者、理論計算担当)したが、まだ掲載に至っていない。国際誌への学術論文1編を作成中であり、年度内に投稿する予定。 ・国際シンポジウム1件（第3発表者）、国内学会2件（第1発表者1件、第3発表者1件）、研究会1件（第1発表者）の研究発表を行った。また研究所共同プロジェクト発表会1件の研究発表を行った。 ・定年退職の時期による制約のため、研究助成の申請は行えなかった。 ・他大学の研究者との共同研究のための議論を行い、上記のように学術論文を投稿予定。
社会貢献	0.05	学部授業科目「物理学I・II」、「物理数学I・IV」を、公開授業として社会人および高校生に公開する。	0.03	・学部授業科目4科目を、公開授業として社会人および高校生に公開したが、今年度は受講者がいなかった。
管理運営	0.40	・教育担当の副学部長として、学部と研究科(理学系)の教育の管理運営を統括する。その他、学部の代議員、自己評価委員、将来計画委員、学生支援委員を務める。全学では、教育研究評議会、グローバル教育支援機構会議、教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会の委員を務める。学部教育委員会からの教育推進経費、地域連携推進経費の申請、執行を統括する。 ・所属系の入試検討委員を務める。募集要項の点検、入試方法の検討などを行う。	0.42	・教育担当副学部長として、全学では教育研究評議会、グローバル教育支援機構会議、教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会、利益相反マネジメント委員会、調査委員会の委員を務めた。学部では、教育委員会（委員長）、代議会、自己評価委員会、将来計画委員会、学生支援委員会、業績評価委員会の委員を務めた。重点施策推進枠事業「学外学修プログラム」推進経費について、学部からの申請書の取りまとめ、全学での審査、学部での実施報告書のとりまとめ、海外実習・研修参加学生の自己分析アンケートの作成を行った。年度計画推進のために学部で作成する教育関連プロジェクトシートの取りまとめを行った。法人評価受審のための現況調査表の作成とデータ解析に協力した。また、共通教育改革に伴う専門基礎科目の再編、新入学者選抜に向けた情報提供と意見交換のため、グローバル教育支援機構該当部門と審議した。 ・所属系の入試検討委員を務め、募集要項の点検、入試方法の検討などを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	深水　孝則	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	共通教育科目の「物理学I・Ⅱ」、学部専門科目の「物理実験Ⅲ・Ⅳ」、「物理学基礎実験」、大学院教育科目の「誘電体論」の講義を担当する。研究室に配属された4年次学生の卒業研究Ⅰ・Ⅱの研究指導を行う。また、研究室の4年次学生の進路や就職先についてもサポートを行う。	0.40	共通教育科目と学部専門科目の講義、及び大学院教育科目の講義を行った。また、物理学Ⅰ、Ⅱの講義においては、講義に演習問題の解説を取り入れ学習効果を上げた。卒業研究生2名の研究指導を行った。
研究	0.40	国際的な学会誌への論文の投稿を行うことを目標として、研究を推進する。	0.40	国際誌に1編の論文が掲載された。
社会貢献	0.10	他大学の非常勤講師として、専門性を生かした教育支援を行って学部学生のコンピュータ技術の向上を図る。教員免許更新のための講義を行う。	0.10	他大学で情報関係の講義を行い、学生のコンピュータ技術の向上を図った。教員免許更新のための講義（実験科目）を行った。
管理運営	0.10	理学部予算編成検討部会委員として管理運営に参加する。物理系会議、理学部教授会、理工学研究科（前期・後期）委員会へ参加して学部と研究科の運営に関与する。	0.10	URGCC委員、及び学部予算編成検討部会委員として積極的に活動を行った。また、物理系会議、理学部教授会、理工学研究科（前期・後期）委員会へ参加して学部と研究科の運営に関与した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	仲間隆男	所　属	理学部　物質地球科学科 学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
学生	0.40	専門科目「物理実験学」（前期），「エレクトロニクス入門」（後期） 「物理実験II」，「物理実験IV」(後期)担当. 教育補助としてTAを活用する. 物理実験II，物理実験 IV 卒業研究：卒研生の指導 大学院前期課程学生および後期課程の指導 大学院前期科目：物質地球科学特別研究・物質地球科学特別演習など	0.40	共通教育「時間と空間」(夜間主)，専門科目「物理実験学」「物理実験II」「エレクトロニクス入門」「物理実験IV」を担当した. 卒業研究(卒研生4名)の指導．大学院前期課程3名，後期課程1名の指導. 大学院前期科目「物質地球科学特別研究」，「物質地球科学特別演習」，「輸送現象論」の担当. 実験科目でTA2名.
研究	0.40	学会への参加 国内および国際学会への参加 論文発表 論文および紀要の投稿 外部および学内資金	0.40	学会等での発表(29件).国際会議発表(22件) 国際学会(SCES2019，岡山)に参加. 論文8編. 東大物性研との共同研究.
社会貢献	0.10	オープンキャンパス，理学部体験ツアへの参加	0.10	オープンキャンパス，理学部体験ツアへの参加. 県内高校での入試説明会(首里高校).
管理運営	0.10	系内委員：TA担当委員，4年次指導教員 学部委員：教育委員会委員 全学：委員会委員(予定)	0.10	系内委員：TA担当委員 学部委員：教育委員会委員
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小田　一郎	所　属	理学部　物質地球科学科　物理系	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。 ・学生が自学自習できる環境を整える。 ・担当する大学院生1名の指導を行う。 ・4年生の指導教官として、学生の生活指導や就職・大学院進学に協力する。	0.40	・担当講義のシラバスを受講者へ周知した。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進めた。 ・学生が自学自習できる環境を整えた。 ・担当する大学院生１名の指導を行い、共著の論文を1編出版した。 ・担当する卒研生・大学院生の就職や大学院進学に関する指導を行った。また、4年生、大学院生の指導教官として、就職や大学院進学に関する学生の指導を行った。
研究	0.40	・5本以上の論文を作成し、外国の論文雑誌に投稿する。 ・科研費を獲得する。	0.40	・3本の論文を作成し、外国の論文雑誌に投稿した。 ・9月にギリシャで開かれる国際会議で招待講演を行った。
社会貢献	0.10	・オープンキャンパスや公開講座等に参加する。 ・学外共同利用施設の運営に協力する。	0.10	・学外共同利用施設の運営に協力した。
管理運営	0.10	・委員会委員の業務に従事する	0.10	・理学部エコ推進委員会の委員長の業務に従事した。 ・理学部学生委員会の業務に従事した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）						
名　前		安田　千寿	所　属	理学部　物質地球科学科　物理系	職　名	准教授
領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定		業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	・担当講義のシラバスを受講者へ周知する。 ・学生の修得度の現状把握に努めながら講義を進める。 ・学生が自学自習できる環境を整える。 ・担当する大学院生の学会発表等を支援する。 ・担当する卒研生の就職や大学院進学に関する指導を行う。		0.30	・担当科目のシラバスや自己評価チェックシートを作成配布した。 ・担当する初年次科目において、高校における修得状況を確認して授業を進めた。 ・大学院生控え室と卒研生控え室の研究環境を整備した。 ・担当する卒研生の大学院進学・就職に関する指導を行った。 ・担当する卒研生の教育実習における研究授業に参加した。 ・全学FDセミナーや高大接続改革に関する講演会などに参加した。	
研究	0.35	・研究に必要なコンピューター計算資源を獲得する。 ・論文を作成、投稿する。 ・研究成果を学会等で発表する。 ・外部資金の獲得を目指す。 ・学内や他大学等との共同研究を推進する。		0.35	・東京大学物性研究所スーパーコンピューターシステムの共同利用申請を行い、プロジェクトが採択された。 ・論文の作成を進めた。 ・科研費に応募した。 ・学内や他大学等の研究者との共同研究を推進した。	
社会貢献	0.05	・担当する授業を一般市民や高校生に公開する。 ・学外共同利用施設の運営に協力する。 ・学会の委員会委員の業務に協力する。		0.05	・担当する科目「物理学入門I」と「物理学入門II」を一般市民に公開した。 ・学外共同利用施設の運営に協力した。 ・日本物理学会の業務に協力した。	
管理運営	0.30	・2年次指導教員として学生の大学生活や履修に関する指導等を行う。 ・非常勤講師室の世話人として、必要な環境を整える。 ・大学入試や大学院入試に関するデータを収集する。 ・その他の委員会委員の業務に従事する。		0.30	・2年次指導教員の業務に従事した。 ・非常勤講師室の世話人の業務に従事した。 ・高大接続改革に関する業務に従事した。 ・高校訪問をすることにより入試等の広報活動を行った。 ・入試に関連するデータを収集した。 ・その他の学内委員の業務に従事した。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）				□ 学外公表に同意しない。	□ 学内外公表に同意しない。	

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	前野　昌弘	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	・タブレットPCを用いた物理シミュレーション教材のコンテンツを整備するとともに、Webを利用して講義録、教材提供などを行う。 ・高校教員などと連携も図りつつ「教職実践演習」の授業内容を充実させる。 ・大学院生、卒業研究生の進路について、相談に乗る。	0.40	・「熱力学」においてはコンピュータプログラムを多数作成し、Webにて教材提供を行った。 ・「物理学概論」では新たなテキストを作成し、学生に配布して授業を行った。 ・「教職実践演習」では学生に主催させた公開講座が多数の入場者を集めて成功した。
研究	0.25	・超弦理論または量子重力などの分野の研究を行い、専門誌に論文を投稿する。	0.10	研究完成に至らなかった。
社会貢献	0.30	・「青少年のための科学の祭典・沖縄大会」の実行委員長、物理系の公開講座の実行委員を務める。 ・ジュニアドクター育成塾／グローバルサイエンスキャンパスの講師、生徒指導を務める。 ・球陽高校SSH運営指導委員を務める。 ・小学校などの初等教育への出前授業等も積極的に展開していく。 ・委員会委員を務める。	0.40	・出前授業は高校4校、小中学校１９校に向けて行った。 ・その他科学関係のイベントに参加した。科学の祭典の実行委員長を勤めた。 ・公開講座は二つ実施した。参加者は74名、265名で好評であった。 ・球陽高校および向陽高校のSSH運営指導委員を勤めた。 ・JST事業「ジュニアドクター育成塾（琉大ハカセ塾）」および「グローバルサイエンスキャンパス（琉大カガク院）」の運営委員および講師を勤め、小中高学生向けの授業を行った。 ・その他学外委員を努めた。
管理運営	0.10	・物理系の広報委員として、物理系ホームページを管理する。 ・高等学校への広報活動を行う。 ・教職教科検討委員会委員を務める。	0.10	・ホームページの管理を行った。 ・オープンキャンパスで広報活動を行った。 ・大学の高校訪問、東京での入試関連イベントに参加した。 ・教育委員会にも途中から参加し、業務を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	谷口　敬介	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	学部生に対しては、専門科目「数値解析演習I, II」「相対論」「光学」の講義、および卒業研究指導を行う。コンピュータを使用する数値解析演習ではマンツーマン指導をして学力向上に努め、講義科目では小テストを頻繁に実施して学生の理解度を確認しながら授業を進める。また、大学院進学を希望する卒研生に対して助言を行う。大学院生に対しては、ゼミ形式の授業「宇宙物理学特論」を行う。	0.40	昨年度の講義ノートや演習プリントを改訂し、授業をより良くするための努力を行った。数値解析演習では、進度の早い学生に追加の演習問題を出題しより理解が進むようにする一方で、進度の遅い学生に対しては必要に応じて個別指導を行った。卒業研究では、学生の学力を考慮し、難易度の高い部分に関してはゼミ形式から講義形式に変更するなど、積極的に指導を行った。また、学生の課題を独立に並行して研究し、学生が出した結果を常に確認できるようにした。
研究	0.40	科研費基盤研究（C）「内部状態を考慮に入れた中性子星を含むコンパクト連星の研究」を推進し、関連論文を査読付き国際誌に投稿することを目指す。国内外の研究者と連携を図り、共同研究を行う。上記の科研費基盤研究は今年度で終了するので、秋に来年度の科研費に応募する。	0.30	採択されている科研費に関連した研究を推進した。国内外の共同研究者との共著論文を国際誌に出版した。また、来年度の科研費に応募した。
社会貢献	0.05	琉球大学公開講座に貢献する。国際誌の査読者として貢献を行う。	0.05	琉球大学オープンキャンパス時の理学部体験ツアーで、参加者に宇宙物理学に関するシミュレーションを披露し、その説明を行った。国際誌の査読者として貢献した。
管理運営	0.15	3年次指導教員として3年生の指導を行う。学部内の自己評価委員会委員と代議会委員として貢献する。また、その他の委員会委員も依頼があれば引き受ける。	0.25	3年次指導教員として3年生の指導を行った。理学部自己評価委員として、現況調査票作成に貢献した。また、理学部代議員や全学の委員、その他の委員も務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	柳澤 将	所　属	理学部　物質地球科学科　物理系	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	今年度より単独の研究室としてはじめて卒研生を受け入れ、4月中旬より3ヶ月間フランスからのインターンシップ生を受けれるので、学生同士の交流がさかんになるよう研究室の雰囲気の維持につとめ、卒研生とインターンシップ生共通の英語でのゼミ・輪読の企画運営をする。 担当講義の後期1年次対象の「力学」は、2年次以上の物理の内容への興味を喚起する内容になるよう、教科書の基礎事項以外に伝える内容を工夫する。	0.25	単独の研究室を立ち上げてはじめて卒研生を受け入れ、同時に受け入れたフランスからのインターンシップ生との交流を橋渡しすることができた。担当科目「波動論」では、動画タブレットを多用し、受講生の興味を引くための工夫ができた。「力学」では、教科書に載る内容の伝え方を工夫し、2年時以上の、数学を多く使った物理の内容に備えることができるよう、内容を工夫した。「物理学トピックスII」の輪講では、自身の研究内容を噛み砕いて伝えることで、聴講した学生に一定の興味を喚起することができた。
研究	0.45	昨年8月までの科研費「国際共同研究加速」でのドイツのグループとの共同研究成果で論文掲載を果たし、さらなる国際共同研究につなげる。 有機半導体の物性・性能評価法の高度化に向けて基盤A・B程度の比較的大型の科研費獲得を目指し、基盤となる実時間・実スケールの計算シミュレーションも、共同研究者と議論を開始し、実行を進める。	0.45	国際共同研究は進行中で、まもなく十分な研究成果の獲得と論文投稿につながりそうである。有機半導体の物性評価法の高度化に向け、新たに実験研究者と共同研究を開始し、同研究者も共同研究者として参画し基盤Bへの応募を果たした。同プロジェクトの基盤となる実時間・実スケール計算シミュレーションに関連し、すでにテスト計算を開始した。今年度は2月21日現在三報の国際査読付成果を発表し、一報を投稿・査読中である。
社会貢献	0.10	東北大学の計算機センターと大規模計算の共同研究（JHPCN-HPCI）を進めており、そこでの成果で招待講演の機会をいただいたので、今年度も引き続き同センターとの大規模計算のシミュレーションの共同プロジェクトの成果公表を、JHPCN-HPCIの成果報告や、同センター主催のワークショップなどで積極的に進める。	0.10	東北大学の計算機センターとの共同研究の成果をもとにしたJHPCN-HPCIでの成果報告をきっかけに、大阪大学の計算科学研究者からのアルゴリズム使用の提案をいただき、共同研究プロジェクトの認知が高まったことを確認した。また、R2年3月に琉球大学にて開催される国際シンポジウム(RIS-TCS 2020)の組織委員を務めた。
管理運営	0.20	今年度から、所属系での教務係担当として、系で提供する講義の時間割管理を円滑に進める。	0.20	系での教務係担当として、共通・専門・教職科目の配置のチェックを行い、時間割表の管理・作成に貢献した。また、グローバル教育支援機構による、理学部教員の共通基礎科目の負担軽減に向けた会合に系の代表として参加し、系の意見を伝えた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	田原 周太	所　属	理学部 物質地球科学科 物理系	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	「物理学実験」で工学部の1年生への実験指導を行う。共通教育科目「時間と空間」の講義を行う。物理系2年生対象の「解析力学演習」で演習指導を行う。また、大学院生を対象とした講義「構造不規則系の物性論」を開講する。研究室に所属する4年次生の指導として研究室ゼミや卒論指導などを行う。	0.35	「物理学実験」で工学部の1年生への実験指導を行った。共通教育科目「時間と空間」の講義を行った。物理系2年生対象の「解析力学演習」で演習指導を行った。また、大学院生を対象とした講義「構造不規則系の物性論」を開講した。研究室に所属する4年次生の指導として研究室ゼミや卒論指導などを行っている。１年次指導教員として、新入生のサポートを行った。
研究	0.40	研究対象とする物質に対する実験や分子動力学シミュレーションなどを実行し、物質構造やイオン拡散等の研究を行う。得られた結果について、研究会への出席、論文や学会発表等を通して公表していく。	0.40	予定通り、実験やシミュレーションを行った。希ガス結晶中に現れるわずかな構造の乱れを新しい手法で解析し、その結果を日本物理学会で発表した。現在、その内容をまとめた論文の原稿を執筆中で、来年度前期頃の投稿を目指している。
社会貢献	0.05	物理系が主催する公開講座に参加し、中高生を対象とした講演や演示実験等を行う。	0.05	８月４日に開催した物理系の公開講座「物理の魅力を教えます２０１９」で一般向けに「レントゲン～第一回ノーベル物理学賞受賞者の物語～」というタイトルの講演を行い、更に「ランダム系物質の実験」という実験ブースを出展した。
管理運営	0.20	系会議へ参加し、学科系の運営に関わっていく。研究科委員会(前後期)にも参加する。安全衛生委員会の委員として活動を行う。物理系のカリキュラム検討委員会委員として活動する。	0.20	系会議・研究科委員会(前・後期)・教授会へ参加した。理学部安全衛生委員として、物理系の安全衛生の啓発に努めた。物理系カリキュラム委員としてカリキュラムや卒業要件などの議論・検討を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山本　健	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	物理系2年次指導教員として、引き続き学生の学習習慣の定着を図る。 物理系の専門科目「物理数学Ⅱ」では、演習の時間をとり、受講者がベクトル解析の考え方と計算技術を確実に身につけられるよう配慮する。 大学院生の研究指導では、修士論文を首尾よく完成できるよう、密にコミュニケーションをとる。さらに、大学院生の研究成果が学術誌へ論文掲載されるように適切な指導をおこなう。	0.30	2年次指導教員として、修学や学生生活などに関する各種の情報提供およびサポートをおこなった。 「物理数学Ⅱ」では、章ごとに小テストを実施し問題演習の時間を設けたが、進度が遅めになってしまった。来年度は授業計画や時間配分を改善する。 研究指導する大学院生は、学会等で3件の発表をおこない、査読付き論文誌に2報が掲載された。
研究	0.40	これまでと同様に、複雑系に対するデータ解析や確率モデル化の研究をおこなう。成果発表に関しては、昨年度に外部資金の支援を受けた研究の成果を論文として出版する。また、物理学と数学の両分野で論文を発表することも平成31年度の目標とする。	0.40	人口分布の確率モデルに関する研究課題で科研費に採択された。 大学院生との論文を含めて、査読付き論文3報が物理学の論文誌に掲載された。 数学の論文は最近アクセプト通知が届き、近いうちに出版される予定である。
社会貢献	0.10	日本物理学会ジュニアセッションの審査員として、高校生の研究発表に対する公正な評価に努める。	0.10	日本物理学会ジュニアセッションの第1次審査委員として、高校生の研究発表レポートを審査した。
管理運営	0.20	大学院教育プログラム委員として、全学共通コア科目の開設に関して議論する。 理学部紀要編集委員として、電子版に移行したばかりの紀要の発行および物理系教員の業績の取りまとめをおこなう。引き続き、今後の紀要のあり方を検討する。	0.20	大学院教育プログラム委員として、大学院教育プログラム学習教育目標とURGCC-Advanced学習教育目標との対応関係表を作成した。 理学部紀要編集委員会では委員長を務め、理学部紀要の発行を統括した。 その他の委員業務にも携わった。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中村　衛	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	各授業で質問・感想用紙を毎回配布して、学生の理解が不十分な点、講義の進め方等について積極的な意見を聴取し、次回以降の授業で生かす。固体地球物理学の授業ではミニテストを毎回実施し、学生の理解度を把握できるようにする。地学インターンシップを実施し、地球科学に関係する企業への学生の関心を高める。2年次指導教員として学生の支援に取り組む。	0.25	授業で意見徴収を毎回実施し、さらにミニテストを実施した。学生の理解しがたかった点を次の授業時に補足説明することができた。 「地学インターンシップ」に関して、1名が受講しインターンシップに参加した。受け入れ先の企業と話し合い、次年度のインターンシップ内容の検討を行った。 年次指導教員として学生支援をおこなった。
研究	0.30	琉球海溝および台湾での巨大地震津波発生可能性研究を推進するため、他大学・台湾の大学との共同観測研究（活断層、自然地震、海底地殻変動観測）を進める。またslow earthquakeに関する研究を進展させる。これらの研究成果は国内外で学会発表および学術雑誌（査読有）へ論文投稿する。	0.30	琉球海溝での他機関との合同での海底地殻変動観測も予定通り実施した。台湾の研究グループとの海底地震観測を実施した。研究成果は論文3本（うち査読誌1本）、学会発表12件（国際4件）である。
社会貢献	0.25	マスコミを通じた研究広報活動、および一般向け講演活動を行い防災活動・地震知識の普及に努める。地震関係の委員会に参画し、研究成果を生かす。	0.25	地震津波災害に関する解説および研究成果発表で新聞掲載（1件）、テレビ番組に出演（1件）、およびテレビ番組への資料提供（1件）をおこなった。 講演3件をおこない、地震防災関連の会議2件（県外2件）に参加した。
管理運営	0.20	各種の委員会委員で組織運営に貢献する。	0.20	図書委員会委員長などの委員として組織運営に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	藤田　和彦	所　属	理学部　物質地球科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	・引き続きアクティブラーニングを意識した担当授業科目の改善を進める。 ・常に学生とのコミュニケーションを心がけ、進路の相談に当たる。 ・海洋微古生物学に関する教科書の出版に向けた準備を進める。 ・協定大学（中国文化大学）との合同実習を企画し，学生間の国際交流を促す。	0.25	・アクティブラーニングとして，「地層学」で野外実習を2回分取り入れ，学生が地層の分類や形成について主体的に考えさせるように実習方法を工夫した。 ・3名の研究室の進路指導に当たり，2名は民間企業への就職，1名は大学院への進学が内定した。 ・10月に台湾で中国文化大学との合同野外実習を実施し，学生間の国際交流を進めた。　・海洋微古生物学に関する教科書の出版に向けた執筆を進めた。
研究	0.25	・基盤研究B（研究代表者）並びに基盤研究S（分担研究者）の4年度目に当たり、得られた成果を公表する。 ・これまで進めてきた日豪国際共同研究を基に，科研費等の外部資金獲得を目指す。	0.25	・これまで進めてきた統合国際深海掘削計画や日豪国際共同研究の成果が，地質学分野のトップジャーナルであるGeology誌に掲載され，成果を共同プレスリリースした。
社会貢献	0.20	・日本サンゴ礁学会の学会誌担当理事として学会の運営に尽力する。 ・教員免許更新講習の講師を務める。	0.20	・日本サンゴ礁学会の学会誌担当理事として学会の運営に尽力した。 ・8月に教員免許更新講習「琉球列島の成り立ち」を実施した（受講者20名）。 ・10月に宮古島市総合博物館で市民講座「グローカルな視点から見た宮古島諸島の成り立ちと環境」を実施した（参加者約20名）。
管理運営	0.30	・副学部長（研究担当）として，理学部の研究の活性化に努める。	0.30	・副学部長（研究担当）として，研究推進委員会をとりまとめた。また，第3期中期計画の中間評価に関わる現況調査表の作成に尽力した。 ・全学ハラスメント防止対策委員会委員として，学内のハラスメント防止に務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	山田　広幸	所　属	理学部　物質地球科学科　地学系	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・担当する講義を、受講者の能力・学習態度を考慮しながら進める。 ・研究室に配属された学生の卒業研究・修士研究の指導を実施する。 ・気象概況説明会「weather briefing」を週1回開催し、学生の気象に対する興味を高め、大気現象への理解を深める手助けをする。 ・研究室に所属する学生、院生の進路や就職についてサポートを行う。	0.30	・担当する講義を、受講者の能力・学習態度を考慮しながら進めた。 ・研究室に配属された学生の卒業論文・修士論文の執筆の指導を行った。 ・気象概況説明会「weather briefing」を週1回の割合で開催した。 ・研究室に所属する学生、院生の進路や就職についてサポートを行った。
研究	0.35	・科研基盤S（航空機による台風観測）の観測実施とデータ解析 ・科研基盤A（ライダーによる強風観測）の観測協力とデータ解析 ・沖縄電磁波技術センター気象レーダーを用いた台風・竜巻のデータ解析 ・台風の進路・強度に関わる数値シミュレーションの実施 ・名古屋大学MPレーダーのデータ解析	0.30	・台風の構造に関する研究論文を投稿した。 ・科研費の分担4件、国交省研究費の分担1件を担当した。 ・科研費共同研究のライダーや雲レーダーを用いた卒業研究を指導した。 ・航空機ドロップゾンデ観測のデータを用いた共同研究を実施した。
社会貢献	0.15	・世界気象機関熱帯気象研究作業部会専門家チームの委員担当 ・気象庁異常気象分析作業部会の委員担当 ・名古屋大学宇宙地球環境研究所の委員会2つの委員担当 ・日本気象学会JMSJ編集委員会など3つの委員会の委員担当 ・日本気象学会沖縄支部の理事の担当	0.15	・日本気象学会JMSJ編集委員、世界気象機関台風ワーキンググループ委員、名古屋大学宇宙地球環境研究所の共同研究・運営に関する委員を務めた。 ・気象学会・気象庁・竹富町の共催で、小浜島で防災気象講演会を2/19に開催し、台風と防災の話題で講演を行った。
管理運営	0.20	・グローバル教育支援機構キャリア教育支援部門の広報セクション担当 ・複合棟屋上の気象測器・名古屋大学気象レーダーの維持管理 ・島嶼防災センターの併任（気象防災担当） ・理学部内の各種委員会委員	0.25	・理学部気象ステーションを維持管理し、教育・研究に活用した。 ・名古屋大学気象レーダーの維持管理を行い、教育・研究に活用した。 ・学内で担当する委員（キャリア教育センター、研究推進会議など）の役割を果たした。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	伊藤耕介	所　属	理学部物質地球科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・講義においては、学生自身が自律的な研究が進められるよう双方向的なやりとりを心がける。 ・研究室配属の学生が自身で修士論文に関わる研究・卒業研究を進められるよう適切な指導を行うとともに、志望通りに就職・進学できるよう相談に対応する。 ・受入予定の留学生が日本での研究生活になじめるよう配慮する。	0.35	・昨年に引き続き、双方向的な授業の実施を心がけた。 ・4年次の指導教員として、進学指導・就職相談に対応した。 ・研究室では、留学生の進学がキャンセルとなったものの、２人の卒業研究指導を行った。
研究	0.30	・科研費基盤Bの枠組みで進めている台風進路に関する藤原効果の研究に関する研究成果について学会発表を積極的に行う。 ・琉球大学戦略的プロジェクト研究の枠組みで進めている大気海洋生態系結合モデルの開発と数値実験を進める。	0.35	・台風の進路に関するレビュー論文を出版したほか、3次元的に働く藤原効果に関する新たな知見を得て、学会発表などを行った。 ・大気−海洋−生態系結合モデルの開発を進め、沖縄に影響の大きかった2018年台風第24号の強度変化と通過に伴う植物プランクトンの増加を適切に再現するシステムを構築した。
社会貢献	0.20	・出版や講演会などの機会を通じて、台風に代表される自然災害に関する知識の普及に努める。 ・これまでの台風研究の成果を気象庁に報告するなど密な連携を図り、応用面での貢献を目指す。	0.20	・雑誌や一般向け講演会、テレビ出演などを通じて、台風に関する災害の解説を行った。 ・気象庁数値予報モデル開発懇談会委員として、台風に代表される気象庁の数値天気予報システムの改善に関する意見を述べた。
管理運営	0.20	・理学部選挙管理委員会、ハラスメント相談支援委員、広報戦略本部の一員などとして、大学全体、または、理学部の環境整備に貢献する。	0.10	・ハラスメント相談支援委員としてハラスメント対応にあたったほか、全学情報システム技術専門委員会、広報戦略本部、理学部広報委員などとして大学全体、および、理学部の環境整備に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	田中　淳一	所　属	理学部　海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	専門科目（海洋有機化学、同実験、有機化学 II、基礎ゼミ）、共通教育科目（化学入門 II, Subtropical Biology in the Ryukyus）、大学院の科目(Topics on Marine Chemical Ecology)、および研究室での特別研究、特別演習等で学部生・大学院生の教育を行う。講義科目については、昨年度のものに新しい情報を取り込み改善を図る。	0.40	専門科目（海洋有機化学、同実験、有機化学 II、海洋化学概論）、共通教育科目（化学入門 II）では、昨年度の内容に新しい情報等を取り込み、さらに評価方法等でも変更を加えた。「Topics ...」と「現代社会と化学」では、受講生がいなかった。また、「Subtropical ...」では、今年度は担当から外されていた。研究室内では、令和2年3月修了予定の後期課程院生等の指導を行うとともに、インドネシアからの理学部実習生を受け入れた。
研究	0.40	申請中の科研費（代表、分担）が受領できる際には、この研究に邁進する。また熱生圏の教員らとの共同研究、ならびに海洋生物の生理活性物質の研究を継続して行う。そして、国際誌への論文投稿、国内外の学会で成果を発表する。	0.40	残念ながら科研費は受領できなかったが、責任著者として国際誌に論文2点を出したほかに、共著で論文2点、総説1点、本の1章に関与した。台湾での国際学会では招待講演を、米国での学会ではポスター発表をするとともに、学内では10名ほどの国内外の研究者仲間で発表会を行った。
社会貢献	0.10	今年度は県内での学会関連の活動は予定していない。本学部と国際交流協定を締結しているSyiah Kuala大学から講演依頼があるので、9月に訪問する予定である。	0.10	予定通り、9月にSyiah Kuala大学でSTEM教育の一環として、また化学専攻の学部生を対象に海洋天然物化学関連の話題を提供した。一方、県内企業から要望された案件に対しては適切に対応した。ボゴール農業大学の研究者からの依頼測定等にも対応した。
管理運営	0.10	系内の留学生委員、地域貢献支援委員、学部の留学生特別プログラム委員等を担当する。	0.10	留学生に関連した業務を行った（募集要項・時間割・便覧の更新等）。系主任から依頼された委員会では、委員長として学内の担当部署と連絡をとりあって業務を行っている。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	石田　哲夫	所　属	理学部　海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・学部生対象の授業（基礎ゼミ、化学入門Ⅰ、生化学、有機化学IV）および大学生対象の授業（酵素反応機構、酸素の生化学）をさらに改善・充実させる。また、分子の世界を新たに開講する。 ・卒業研究（2名以上）および修士論文（３名）の指導をさらに充実させる。 ・２年次指導教員として新入生の順調な修学を支援する。 ・研究室の学生たちの進学・就職活動が円滑に進むように支援する。	0.40	基礎ゼミ(5名)、化学入門I（80名）、分子の世界(69名)、生化学（49名）、有機化学IV(17名)、酵素反応機構特論(8名)の授業をおこなった。卒業研究（6名）、修士課程（3+2名）、博士課程1名の研究指導をした。学部卒業生は、1人が京大大学院に進学、4名は就職を無事に決めた。1名は配慮を要する学生で、9月卒業を目標に研究指導を続けている。
研究	0.50	・研究室発の論文を3つ以上および共同研究論文をを4つ以上発表する。 ・学生の学会発表を含めて、5つ以上の学会発表を行う。 ・外部資金の獲得を目指す。	0.45	共同研究論文2つを査読付き欧文学術誌に発表した。研究室発の論文と共同研究論文を各1件投稿中。学会発表は5件行った。外部資金については、サントリーや味の素の公募研究にアプライしたが成功しなかった。
社会貢献	0.00		0.05	日本分析学会九州支部の分析ワークショップ（2019年12月に沖縄で開催）で60分間の講演を行った。
管理運営	0.10	・学部の委員会および系内の委員会の委員のそれぞれの職務を果たす。	0.10	全学の営利企業役員等兼業審査委員会の委員、予算委員会の委員長、2年次の指導教員を務めた。
	0.00			
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

☐　学外公表に同意しない。　　☐　学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	漢那 洋子	所　属	理学部　海洋自然科学科　化学系	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	●共通教育等科目「化学Ⅰ」、専門必修科目「基礎ゼミⅠ」「物理化学Ⅱ」、「物理化学実験」、専門選択必修科目「物理化学Ⅳ」、および大学院科目「分子光化学特論」を従来通り、担当する。●教職関連科目「理科教育法C」および「教職実践演習」を非常勤講師と共に担当する。●理学部の教員養成関連の委員・担当教員として、教職課程を履修する理学部全体の学生の指導・対応にあたる。●研究室に所属する卒業研究生および大学院生（修士課程）の研究指導等を行う。●化学系3年次学生の年次指導教員として学生への指導を行う。	0.28	●共通教育等科目「化学Ⅰ」、専門必修科目「基礎ゼミⅠ」「物理化学Ⅱ」、「物理化学実験」、専門選択必修科目「物理化学Ⅳ」、および大学院科目「分子光化学特論」を従来通り担当した。●教職関連科目「理科教育法C」および「教職実践演習」を共同で担当した非常勤講師および他系の専任教員と連絡・調整を行いつつ担当した。●理学部の教員養成関連の委員・担当教員として、教職課程を履修する理学部全体の学生の指導・対応にあたった。●研究室に所属する卒業研究生および大学院生（修士課程）の研究指導等を行った。●化学系3年次学生の年次指導教員として学生の指導を行った。
研究	0.30	●光化学反応におよぼす分子環境の効果に関する研究成果について学会発表を行う。●光化学を題材にした科学教育の研究についてこれまでの成果を論文を執筆する。●島嶼地域科学研究所の併任教員として、「ジェンダーと自然科学」に関連したテーマに取り組む。●光物理・光化学に対する各種分子環境の効果、および光化学を題材とした科学(化学)教育に関する研究を進める。	0.19	●有機分子の光物理・光化学に及ぼす分子環境の効果に関して、分子集合体の効果および生体高分子の効果についての研究を再開した。●光物理・光化学を題材とした科学教育のについて、蛍光色素溶液の見かけの色と分光分布に関する研究を再開した。●島嶼地域科学研究所の併任教員として「ジェンダーと自然科学」に関連したテーマに取り組み、特に、化学史研究会および名古屋大学GRLにおいて研修を行った。●光化学および科学(化学)教育に関する研究テーマのプロポーザルを作成した。
社会貢献	0.20	●公益社団法人日本化学会の代表正会員を務める。●本学の「教員免許状更新講習」において、選択科目を1講座を提供する。●本学の公開講座において1講座を提供する。●共通教育科目「化学Ⅰ」および専門科目「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅳ」を公開授業として提供する。●沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事を務める。●沖縄県男女共同参画審議会委員を務める。●高等学校等からの要請に応じて、出前講座等を実施する。	0.27	●公益社団法人日本化学会の代表正会員を務め会員増強や広報活動等に努めた。●本学の「教員免許状更新講習」の選択科目『光と物質一色と化学変化一』を開講した。●共通教育科目「化学Ⅰ」および専門科目「物理化学Ⅱ」「物理化学Ⅳ」を公開授業として提供し、「化学Ⅰ」と「物理化学Ⅱ」に社会人の受講生を受け入れた。●沖縄県理科・化学教育懇談会の幹事を務め、化学教育フォーラム開催等に取り組んだ。●沖縄県男女共同参画審議会委員を務め、県の男女共同参画推進に関する審議に参加した。●沖縄県内の県立高校2校（那覇高校および向陽高校）の学校評議員を務め、審議に参加した。●沖縄県委託事業「子供科学人材育成事業」の運営委員を務めた。●沖縄県科学人材育成事業「サイエンスリーダー育成講座」の一環として高校生8名を5日間、研究室に受け入れて指導を行った。●『「サイエンス体験会 in 座間味島」および「in 南大東島」』において光化学の実験を行った（県の事業の一環）。●第42回沖縄青少年科学作品展の審査員を依頼され、審査と講評作成等を行った。●沖縄県立宮古高校より、出前講義『理系女子・理系男子の世界—その進路・キャリア、そして生活や文化—』を依頼されたが、日程の都合がつかず、提供できなかった。
管理運営	0.20	【全学】●教員免許状更新講習実施委員（理学部選出）を務める。 【理学部】●理学部教育委員会委員を務める。●理学部の教育委員会委員および教員養成担当として、教職課程に関する種々の事柄の検討や業務、教職志望学生の指導体制を検討する。 【化学系】●化学系教務委員を務める。●化学系施設・安衛法対策委員を務める。●教職課程全般の担当を務める。●卒業研究発表会および修士論文審査会の世話係を務める。●その他の学内委員を務める。	0.26	【全学】●全学教員養成運営協議会委員（理学部選出）を務めた。●教員免許状更新講習実施委員（理学部選出）を務めた。【理学部】●理学部教育委員会委員（化学系選出）を務め、理学部内の教育に関する議論に参加し書類作成等の仕事を行った。●理学部の教育委員会委員および教員養成担当として、教職課程に関する種々の事項の検討や業務、教職志望学生の指導体制を検討、専門委員会の設置の仕事を行った。【化学系】●教務委員を務め、カリキュラムや授業担当等に関する議論に参加した。●化学系施設委員を務め、化学系内の共通スパースの使用規定改定等の議論に参加した。●教職課程全般の仕事に関して、その担当を務めた。●卒業研究発表会および修士論文審査会の世話係を務めた。●化学系内の2つの人事WGメンバーを務め、教員選考に関する仕事を行った。●その他の学内委員を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中川 鉄水	所　属	理学部　海洋自然科学科 化学系	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	昨年度感じた授業方法の課題を改善する。特にこれまで使ってきたスライドやカリキュラムを見直し、効率的かつ効果的な授業形態にする。これまで個人的に行ってきたセミナーは希望者がいた場合に行うが、化学系に行っている実験講座は学期中も行い、充実させる。新しく入ってくる学生が5人になるので、指導不足とならないようコミュニケーションを密に取っていく。	0.20	担当する全授業のテキスト改良を行った。個人的に行っている学生向け講座のうち実験講座は3度開催した。その他に研究室在籍の学生と基礎ゼミの学生に公開講座「身近な化学」で教鞭を取ってもらい、プレゼンスキルを磨くと同時に人に伝える難しさを実感してもらった。学生とのコミュニケーションは可能な限り口頭・電話・LINE・メールでこまめに行い、不在時にもトラブルが起こった場合に問題無く対応できた。
研究	0.40	沖縄県のプロジェクトが最終年度なので、次につながるように成果を出し、製品化への準備しておく。科研費（分担）もやや遅れ気味なので後れを取り戻す。企業との研究も開始する予定なので、滞りなく進める。論文・特許は溜まっていく一方なのでひとつでも多く掲載・申請する（最低論文3本、特許2報）。	0.40	沖縄県プロジェクトは特許を2件出願予定で、商品化のめどがある程度立った。特に教育用水素発生装置は販売可能な段階である。科研費は技術補佐員を雇って研究を加速させ、最低限の役割は果たした。企業と2社（2件）共同研究契約を結び、別プロジェクトでも寄附金という形で資金を獲得した。投稿間近の論文が3報あるので、今年度中に投稿する予定である。
社会貢献	0.20	公開講座などこれまで行っていた活動の集客数を上げる。GSC等の大学が行っている事業に貢献する。教員免許更新講座を新たに行うことになったので、教育現場に自分の行っている研究や最新情報を還元できるように良い授業を行う。	0.20	公開講座「水素のチカラ」は3回行い、「身近な化学」は2回行ったが、本部の要請で徳之島でも行う予定である。GSCは高校生を2人受け入れ、一人は全国受講生発表会で受賞した。教員免許状講習も行い、研究の社会還元という点では十分に果たしたと考える。更に沖縄総合事務局や沖縄TLO等の要請で講演会に4回登壇した。また、応用物理学会員として宮古島のエコフェスの運営・展示や地元高校生の出前授業を行った。
管理運営	0.15	特に重要な役にはつかないので、与えられた仕事を全うするよう努力する。	0.15	書記は出張等で代打をお願いすることが多く、記載が不十分な場合もあったので次回の課題となった。他の委員は問題無く責務を全うし、積極的に意見を述べたので、総合的には及第点だったと考える。
	0.05	事務処理（ミスが多いこと）はある程度改善してきたがまだ不十分なので、これまで取り組んでいたミスを無くす方法を改良し、今まで以上に効率的かつ確実な事務処理ができるような仕組みを作る。	0.05	個別に改善策を講じたがうまくいかない場合もあり、いくつかミスはあったので引き続き改善していきたい。ただし根本的な課題がはっきりしたので、次年度はその点を充填的に改善していこうと考えている。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	伊澤　雅子	所　属	理学部　海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	博物館学芸員コースの順調な運営を行うことを目指す。特に、自身が退職後の引き継ぎを行う。専門科目、大学院科目において科目を担当する。博士前期課程学生3名、および学位取得をめざす修了生2名の研究指導を行う。TA、RAの制度も活用して大学院生の指導に取り入れる。4年次3名について卒業研究の指導を行う本年度は、台湾の中国文化大学との国際サマーコース（学部生対象）を台湾で実施し、グローバル教育の一環とする。	0.20	予定した科目は実施した。博士前期課程学生、学部生については修了に向けて指導を行えたが学位取得予定者2名のうち1名は取得ができなかった。中国文化大学との国際サマーコースも予定通り実施した。
研究	0.10	ヤマネコ類、大東諸島の生態系、哺乳類と植物との関係について大学院生・ポスドク研究員や系内および他大学の研究者と共同で生態学的研究を進める。イリオモテヤマネコの研究については一部環境省及び林野庁からの受託研究として行う。タイ、台湾において海外調査を実施する。現在投稿中の1編、投稿準備中の5編の論文について受理をめざす。日本哺乳類学会理事として学会の運営にあたる。	0.10	本年は予定した研究のうち、大東諸島における調査研究は実施できなかった。共同研究を含めて、学術論文は予定以上に発表することができた。
社会貢献	0.10	環境省、林野庁、沖縄県、竹富町等の各種委員会に可能な限り出席し、希少種の保護、環境保全について意見を述べる。一般向け講演会（沖縄こどもの国、西表島等）、マスコミ（新聞、ラジオ）等で研究成果を還元する。	0.10	環境省、林野庁、沖縄県、竹富町等の各種委員会にはほぼ出席できた。一般向け講演会も予定通り実施した。
管理運営	0.60	学部長および研究科長として学部および研究科の運営にあたる。また全学の関連委員会委員として会議に出席し議論を行う。	0.60	学部長および研究科長として学部および研究科の運営にあたり、全学の関連会議委員として議論を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	横田　昌嗣	所　属	理学部　海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学部の植物形態解剖学，生物学野外実習，進化生態学実習，基礎ゼミ，琉大特色科目の琉球の自然保護，博士前期課程の講義を行うほか，卒論の学生の研究指導を行い，短期留学プログラムの受講者を対象とした英語科目の講義を担当する．3年次指導教員として、生物系3年次学生の修学指導にあたる．	0.30	短期留学プログラムは開講されず，副査を務める予定の博士後期課程の論文は提出されなかったので，委員を務めることはできなかった．それ以外の項目については，当初の目的を達成した．
研究	0.30	現在執筆中のラン科に関する著書を出版する．琉球列島の野生植物の分類に関する原著論文を執筆し，作成できたものから順次投稿する．沖縄県で開催された日本植物学会でのシンポジウムの成果を出版物としてまとめて，公表する．	0.30	イギリスで出版されたラン科に関する専門書の日本語訳と監修を担当し，年度内に出版された．イネ科に関する専門書は，年度内に出版される予定で校正作業中．宮古島市史の1冊は，年度内に発行された．ラン科に関するもう1冊の専門書と宮古島市史の2冊目については，引きつづき原稿を執筆中である．シンポジウムの出版物については，引き続き出版のために努力する．年度内に原著論文は6編（すべて英文），紀要・報告書は2編が発行された．
社会貢献	0.15	沖縄県文化財保護審議会委員，環境省野生生物課や沖縄県自然保護課などの検討会委員として専門家の立場として絶滅危惧種の保全，自然環境や文化財の保護と活用について意見を述べ，世界自然遺産指定のための科学委員会委員としての活動を行う．国立自然史博物館設立のためのワーキンググループ委員として活動を続ける．	0.15	予定していた目的は，ほぼ達成した．年度内に一般市民を対象とした講演をつくば市で2回，那覇市で1回行い，北部3村の役場職員を対象とした世界自然遺産候補地での野外観察会を2日間行った．消失した首里城再建のための寄付活動を行い，年度内に沖縄県文化振興課に寄付を行った．
管理運営	0.15	生物系内および理学部内の各種委員を務めるほか，琉球大学キャンパス内の自然を活用した施設整備と教育プログラム作成のため努力する．	0.15	施設整備と教育プログラムについては進展がなかったが，生物系内および理学部内の各種委員については，当初の目的は達成した．
進路指導	0.10	研究室に所属する学部学生，生物系3年次学生の進路について助言を行う．	0.10	当初の目的は達成した．
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	広瀬裕一	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	担当する正規の授業（学部、大学院）を従来通り提供する。教職課程・学芸員課程の講義も分担する。学生の研究指導では学年・進度に応じて論文作成や学会発表を目標に指導を進める。 2年次指導教員を担当し適切に指導を行う。 担当する教職科目を通して、教職志望の学生について進路指導を行う。 国際合同野外実習の世話人として調整を担当する	0.40	担当する正規の授業（学部、大学院）を従来通り提供した。学生の研究指導では学年・進度に応じた目標で指導を進めた。 2年次指導教員を担当した。特に問題のある学生については、保護者との面談を行い、保健管理センターとも連携して対応を進めている。 国際合同野外実習の世話人として、他大学との調整を担当した。
研究	0.30	現在投稿中の論文（2編）について受理を目指す。新たに論文投稿の準備を進める。 他大学・機関との共同研究を進め次年度の新規科研費獲得を目指す。 ORCHIDのプロジェクト研究を進め、学会・論文発表できる成果をあげる。	0.30	総説2編・原著論文2編を発表し、このうち2編は雑誌の表紙に採用された。加えて2編が受理された。Okinawa Colloids 2019でKeynote Speakerを担当した。ORCHIDのプロジェクト研究および国外への教員派遣で調査研究を進めた。新たな科研費の獲得はできなかった。
社会貢献	0.20	日本動物学会九州支部代表および日本動物学会ZooDiversity Web委員として学会運営を分担する。Invertebrate Biology誌、Frontiers in Marine Science誌のeditorial boardを担当する。教員免許更新講習を分担する。	0.20	9件の論文査読を担当したTBS（4月），日本テレビ（5月）からのホヤに関する問い合わせに対応した（電話、電子メール）。動物学会九州支部代表及びZoodiversity Web委員会委員を担当した。研究論文2件について大学広報よりプレスリリースを行なった。教員免許更新講習を小林氏（非常勤）と分担した。リケジョ研究体験の受入研究室を担当した。
管理運営	0.15	学芸委員課程の運営に参加する。理学部将来計画委員会、学生支援委員会等に加え、生物系SEMの機器管理を担当する。	0.10	熱帯生物圏研究センター運営委員会、理学部学生支援委員会などで業務を分担した。学芸員課程の運営に参加し、業務の引き継ぎ行なった。生物系SEMの機器管理を担当した。入試相談会の説明員を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成31年5月以降に学内外へ公表されます。

平成30年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）					
名　前	立原一憲	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	講義の理解度を把握するため、毎回理解度チェック用紙を配布し、問題点があれば、次回の講義で補足説明を実施する。実習では、大学外の機関と連携し、実習内容が社会でどのように活用されているかを体感させるよう試みる。大学院教育に関しては、各自の研究目標を明確に設定し、論文発表を促す。毎週、研究室在籍学生の学業の進捗状況を報告させる。	0.30	生物学概論：毎回、分からなかったこと、疑問に感じたことを提出させ、件数の多かった質問、重要と思われる質問に対して補足説明を実施した。海洋生物生産学実習Ⅱ：沖縄県栽培漁業センターを見学し、大学で学んだことが実社会でどう生かされるかを体験させた。陸水生態学ほか：学生が興味を持てるよう標本を見せながら具体的な説明を試みた。大学院教育：毎月曜日に前週の報告と次週の予定を検討し、学生に具体的な目標を立てさせた。4年次および大学院生の指導教員として、学生の指導を行い、必要に応じ個人相談を行った。
研究	0.30	今年度は、3報の論文の印刷もしくは受理を目標とする。少なくとも国際・国内学会あわせて3回の学会発表を行う。現在進めている琉球列島産魚類の生活史の研究に研鑽する。各種学会の役員を引き受け、依頼された論文の査読を積極的に行う。外部研究費の獲得に努める。	0.30	今年度は現時点で5報の論文が印刷された（達成率333%）。国際・国内学会で10回の口頭もしくはポスター発表を行った（267%）。日本魚類学会の自然保護委員、水産増殖学会評議員・編集委員、日本生態学会保全生態研究誌の編集委員を務めた。博士後期課程1名、博士前期課程3名、学部生9名に生活史のテーマを与え研究中である。昨年度に引き続き、科研基盤Bを受け、さらに受託研究1件と所属学生が1件の外部資金を獲得した。
社会貢献	0.30	外部の委員を積極的に引き受け、各種委員会への出席や民間企業へのアドバイスは、少なくとも各月4回程度、年間48回程度を目標とする。沖縄の自然保護や環境教育に関する啓発活動を行う。	0.30	現時点（1月22日）で、107件（10.7回/月　達成率268%）の各種審議委員会および民間企業への指導を行った。西表島の世界自然遺産登録のIUCNへの説明役を担った。学会誌の査読、学会誌編集委員、水産増殖学会評議員として活動した。
管理運営	0.10	担当する学内、系内の委員をこなす。大学院学務として9月と3月に滞りなく修了生を送り出せるよう努める。代議員として会議に出席する。	0.10	大学院学務として9月修了者を無事送り出し、現在3月修了の準備中である。代議員として代議会に出席した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	竹村明洋	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	共通教育科目（生命の科学など）及び学部専門科目（脊椎動物学など）を担当する。大学院科目（比較内分泌学特論など）を担当する。上記講義等では、講義ごとに設定したメールアドレス等を用いて学生の意見・感想を取り上げる工夫を凝らす。研究室所属の学部学生の卒論指導を行い、研究成果の学会発表を奨励する。大学院博士前・後期の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿して論文採択を目指す。研究室に所属している大学院生全員が国際もしくは国内学会での発表を少なくとも一回行うようにする。二年次指導教員として新入生の指導に当たる。	0.20	共通教育・学部科目として「生命の科学」、「比較内分泌学」、「基礎ゼミ」、「海洋生物生産学実習」などを、大学院講義として「比較内分泌学特論」、「Advanced Comparative Endocrinology」、「Reproductive Physiology」などを担当した。済州大学との学生交流の取りまとめ等を行った。大学院学生の研究成果を国際学術誌（7本）に投稿した。学生が筆頭発表者である口頭発表もしくはポスター発表は7回（うち、国際学会は1回）であった。ESCフォーラムの一環として、学生セッションを企画運営した。2年次指導教員として、学生支援を行った。年度目標はほぼ達成したと判断する。
研究	0.20	外部資金の獲得に努め、年度内に研究を計画通り進めてサンゴ礁魚類の環境利用特性の一端を明らかにする。韓国やベトナムの研究者との国際共同研究を実施し、海洋環境に適応した魚の活動リズムを沖縄と比較する。一連の研究に関する研究論文の採択を目指す。重複申請が可能な科研費やその他の外部資金に応募して採択を目指す。学長リーダシッププロジェクトのPIとして、琉球大学の特徴的な研究を推進する。	0.20	外部資金として新たに科研費を獲得した（基盤研究B）。民間との共同研究を2件推進した。本年度の外部資金の獲得は直接経費で約900万円であった。韓国やベトナムを訪問して共同研究を行った。さらに、学内の学長リーダシッププロジェクトのPIとして、研究を推進した。研究成果は査読付き雑誌14編（受理・印刷中）としてまとめた。年度当初目標を達成したと判断する。
社会貢献	0.10	NPOや学会等の講演会等に積極的に企画・参画し、サンゴ礁生物環境の一般理解を深める。学会活動および学術雑誌の編集や査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。	0.20	時間生物学会評議員や沖縄生物学会庶務としての活動を行った。沖縄県の振興審議会環境部会副部会長、環境審議会会長のとしての活動も行った。国際学術誌AquacultureのEditorとして約400原稿の編集を行うととも、Comparative Biochemstry and PhysiologyのInternational Advisory Boardとしての活動も行った。昨年度から引き続き多数の雑誌の査読を行った。年度目標を達成したと判断する。
管理運営	0.50	本学副学長・副理事(産学官連携)として本学の運営に主体的に参画する。亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として本学の学際的な研究プログラムを推進するとともに、産学官連携推進機構の副機構長および産学官連携部門長として、本学の知的財産を利用した地域貢献を推進する。	0.40	本学副学長・副理事として産学官連携を推進した。亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構長として機構の管理運営を行った。役員等懇談会、教育研究評議会、企画経営戦略会議、研究推進会議や地域連携推進機構運営委員会等の会議に出席して意見を述べ、本学の施策の実施に寄与した。年度当初目標を超えて達成したと判断する。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	池田　譲	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.35	分かりやすい共通教育講義、学部専門講義、受講者自らが考え議論する大学院専門講義を行う。日常的な実験、ゼミにおける論文講読を通じ、学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導を行う。また、学部生、大学院生およびポスドクの進路について、日常的に助言、サポートを行う。	0.35	学部専門講義については、学生からの質問・感想等から概ね目標を達成したと判断できた。大学院専門講義では、参加者の活発な議論を引き出し、実りある内容とすることができた。学部4年生、大学院生、ポスドクの研究指導では、議論を日常的に重ね、学術的に評価し得る内容の研究を遂行させることができた。また、大学院生、ポスドクについて、国内学会への参加を奨励し、成果発表の機会を設けた。博士課程進学希望の大学院生については、日本学術振興会D1特別研究員への申請をサポートし、採択されることができた。
研究	0.30	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題を遂行する。	0.30	科学研究費補助金の助成対象となった研究課題（3件）および担当研究者であるORCHIDSプロジェクトを遂行し、成果を国内学会にて発表した。さらに、研究成果を4本の原著論文として国際誌に、1本の総説論文として和文誌に発表した。また、国際誌の査読者を複数担当した。
社会貢献	0.05	教員免許更新講習に向けて準備をする。	0.05	教員免許更新講習に向けて準備を行った（ただし、令和元年度の開講はなかった）。一般社団法人日本科学機器協会のインタビューに応じ、機関誌「科学機器」に内容が掲載され、専門的事柄、大学教員としての考えを広く一般に伝えることができた。また、テレビ番組制作会社からの、専門に関わる問い合わせに数多く応じ、一般向けテレビ制作に助力した。
管理運営	0.30	生物系広報ワーキンググループメンバーとして、生物系の広報活動に関する事柄に従事する。また、1年次指導教員として、学部教育に関する諸事に関わる。	0.30	生物系広報ワーキンググループ世話役として、系内の広報活動に努めた。また、理学部副学部長（国際担当）、ORCHIDS運営委員長、全学国際交流に関する自己点検・評価委員会委員として、国際交流の発展に努めた。さらに、大学院教育プログラム委員、自己評価委員、1年次指導教員としてとして、大学院、学部の管理運営に従事し、教育研究の遂行に努めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	中村　崇	所　属	理学部　海洋自然科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.45	担当講義科目全般における内容充実を図る。担当実習を、瀬底実験施設で実施し、生物生産学実習VIIIと連携しつつ、サンゴ礁生態系について学生が体験的・体系的に理解できるよう目指す。留学生向け講義（Introduction to Oceanography、APIセミナー等）を担当する。また、「総合環境学概論」を分担し、副専攻カリキュラムへの貢献を目指す。6名の4年次生についての研究・進路指導および、3名の修士学生についての研究指導を担当する。	0.00	講義・実習担当科目では、前期の瀬底実験施設での実習から、後期専門講義にかけて、サンゴ礁生態系を体系的かつ体験的に理解できるような実施ができた。また、副専攻カリキュラム講義でもある「総合環境学概論」を分担した。大学院講義では他大学との通信を用いたCOIL型講義を含めた実施ができた。今年度は学部生11名と大学院生3名を対象に卒業・修士論文の指導をおこなった。
研究	0.30	浅海域でのサンゴ群集調査およびサンゴ礁生物の環境応答に関する研究を進める（科研A分担）。また、2012年度からの、琉球列島の島々でのサンゴ個体群生態学および繁殖生態学的なサンゴモニタリングを継続する（科研C）。島嶼でのサンゴ礁保全の社会システム作りについて、サンゴ礁島嶼生態系の自然・社会科学双方からの研究をすすめる（科研B分担）。また、沖縄県内でのサンゴ礁保全にかかる受託研究、ORCHIDSサンゴ礁生物分野代表を担当する。成果については順次論文化および学会等での発表を目指す。	0.00	サンゴ礁生物を対象とした研究を展開した。野外潜水調査をおこない、石西礁湖（科研A分担/B分担）、沖縄島および周辺離島（科研A分担、沖縄環境科学センター受託）、与論島・奄美大島・屋久島などでのサンゴ群集調査（科研B）の他、主にサンゴ群集の白化と回復に関する研究（科研C／科研A分担／環境省総合研究推進費分担）を実施した。その他、学内ではORCHIDSの「見える化」研究、国内企業との共同研究を進めた。成果については、日本サンゴ礁学会等での学会発表および論文化を進めた。
社会貢献	0.10	日本サンゴ礁学会代議員、沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わる。環境省自然再生事業の検討委員、モニタリングサイト1000の検討委員を担う。一般向けには、国内での公開講座・講演会・レクチャー・セミナー開催や各種シンポジウム・ワークショップ開催に積極的に関わり、本学での研究成果についての社会還元・啓蒙促進につとめる。	0.00	日本サンゴ礁学会評議員・沖縄生物学会庶務幹事として学会運営に関わった。一般向けには、公開講座をおこないつつ、TV番組の取材受け入れなどをおこなった。また、県（港湾開発課）の専門家ヒアリング、沖縄県進行審議会の専門部会委員、環境省の事業実施計画検討委員・モニタリングサイト1000検討委員・総合推進費のアドバイザーなどを担った。海外向けでは、大洋州からのJICA研修員に対してサンゴ礁生態学・保全管理の基礎についての講義を担当した。また、編著者として一般向けの本「サンゴの白化」の執筆・編集を行った。
管理運営	0.15	学部学務WGメンバーとして学業環境の充実を図る。学部の教育委員会委員・特別プログラム運営委員として、教員養成・国際交流推進につとめる。また、自己評価委員として認証評価に関する情報取りまとめ等にかかわる。	0.00	生物系学務WGメンバーとして学部学務の実施に関わった。また、入試改革WG、自己評価委員、教育委員、特別プログラム運営委員などを務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	James Davis REIMER	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	共通教育科目（生物学実験など）及び学部専門科目（サンゴ礁多様性保全学）を担当する。大学院科目（English Manuscript Preparation、Advanced Invertebrate Biologyなど）を担当する。大学院博士後期及び修士課程の学生を指導し、研究成果を国際学術誌に投稿し、論文採択を目指す。	0.40	無事に共通教育科目も専門科目も担当した。大学院科目も担当した。大学院学生の指導して、国際・国内学会や論文などの活動の指導をしました。日本産のスナギンチャク新種の論文も受理されて、大学院生が参加している論文が26件が受理された。
研究	0.40	現在投稿中・準備中の論文5件について受理を目指す。沖縄や太平洋におけるスナギンチャク類の調査や遺伝的変異について研究を進める。一連の研究を大学院博士課程の学生と共に行い、研究論文の採択を目指す。学会活動および学術雑誌の査読を通じて、関連分野の発展に貢献する。	0.40	今年度、論文37件が受理されました。日本産のスナギンチャク類の論文も受理された。論文の中に、大学院性が参加している論文が26件である。研究室の合計で、学会発表18件を行った。Reviewerや国際学術雑誌Section EditorやAssociate Editorとして、60論文以上reviewとeditorとして担当した。
社会貢献	0.05	沖縄サンゴ礁生態系再生projectでは、outreach活動やcapacity buildingを行う。また、マスコミに研究結果を広報する。	0.05	中学校で、Science Career Dayで発表した。また、一般向きの発表を4回した。3月に、香港大学の野外実習の担当を行った。
管理運営	0.15	大学院学務WGの世話係やRIMPのProgram Directorとして委員会をリードする。大学院WGでは、全体のまとめ・責任の担当するの上、4月・10月の留学生orientationや、卒業発表会の広報や準備を行う。特別プログラム委員会では、琉球大学の国際化を進むように活動する。	0.15	大学院学務WGとRIMP委員会に参加した。大学院WGの世話係で、全体の管理、そして学生便覧や時間割、卒業発表のtitleなどの英文版のチェックも行った。4月・10月の大学院生のorientationも行った。大学院卒業発表（最終試験）の担当もしています。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	栗原晴子	所　属	理学部海洋自然科学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.33	生物海洋学、海洋生態学の基礎的知識の学習，理解、さらに学習意欲を促す授業の実施する。 目的意識をしっかりと持ち、自律性、積極性および国際的意識を持つ学生の教育。研究室の円滑な運営し、学部学生／博士前期課程の学生の研究指導を実施する。大学院学務担当として、大学院博士前期／後期課程の学生支援を実施。	0.33	大学院学務として大学院博士前期／後期課程の学生支援、発表会の運営管理、指導全般を実施した。海洋環境学、海洋生態学、基礎ゼミ、海洋環境科学特論、Introduction to Oceanography,生物学ゼミナールI, II, 生物学実験、進化生態学実習、沖縄のサンゴ礁、熱帯生物学概論の講義等を実施した。研究室所属の学部学生6名， 台湾からの短期留学生、大学院学生２名の研究指導を実施した。
研究	0.37	国内／国際共同研究の実施すると共に、国際／国内学会での研究成果発表。国際雑誌／国内雑誌へ論文を投稿する。研究費の獲得やその他シンポジウムの開催などを積極的に実施する。	0.37	国際シンポでの招待講演1回および国内での招待講演2回，その他学会での研究発表を4件実施し成果を発表した。国際科学雑誌に7本の論文が受理された。科研基盤B国際（代表）、Marine Pew Fellow （代表）、文部科学省[海洋資源利用促進技術開発プログラム(分担）科研基盤A(分担）2件、SCOR (Working group 149)、学内の競争的資金（分担）に関する国内外での共同研究を実施した。新たに宇留間助成金を獲得した。また日本女性科学者奨励賞を受賞した。
社会貢献	0.20	ホームページやメディア等により、研究成果を社会へ情報発信する。学外審議会，学会関連の各種委員会としての責務のを果たすと共に、環境保全や教育普及等の社会貢献活動を実施する。	0.20	サンゴ礁学会の理事に選出され，理事(庶務)を務めた。さらに教育普及啓発委員会委員長、サンゴ礁学会評議員、サンゴ礁学会広報委員、海洋学会環境賞選考委員を務めた.沖縄県立博物館にてサンゴ礁に係わる展示を実施した。また朝日新聞記者からのインタビューを受けた。
管理運営	0.10	大学院学務担当、その他委員会等に関わり責務の実施。その他会議への出席する。	0.10	大学院学務に関わる業務を実施した。その他教授会、生物系会議等に出席した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。